営業の概況

営業の概況

（平成18年9月30日現在）

当中間期のわが国経済は、原油価格の高騰や米国・中国経済の減速懸念等はあるものの、世界経済の持続的な拡大と好調な輸出に支えられ、緩やかな回復基調が続きました。企業部門では好調な業績を背景に設備投資を拡大させ、家計部門は雇用や所得が改善したことを受け、今後も国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれております。

こうしたなか、当中間連結会計年度における損益状況につきましては、資金の効率的運用・調達及び経営全般に亘る合理化に努め、グループ全体の収益力の強化を図りました。

当中間連結会計期間末の主要勘定残高は、調達面では預金が前年同期比2,251億円増加して6兆5,420億円となり、譲渡性預金が前年同期比334億円減少して2,413億円となりました。運用面では貸出金が前年同期比471億円増加して5兆2,155億円となりました。

損益面では、連結経常収益は前年同期比30億1千1百万円増加して876億5千5百万円、連結経常費用は前年同期比11億8百万円増加して577億9千6百万円となりました。その結果、連結経常利益は前年同期比19億2百万円増加して298億5千8百万円、連結中間純利益は前年同期比5億7千3百万円減少して175億5千1百万円となりました。

なお、当中間連結会計期間末の国内基準による連結自己資本比率は前年同期比0.02%減少し9.50%となりました。

連結会社は保証業等を営んでおりますが、それらの事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、以下は福岡銀行の業績について記載いたします。

当中間期の当行の業績につきましては、預金は流動性預金が引き続き順調に推移しましたことにより、前年同期比2,252億円増加して6兆5千460億円となりました。貸出金は地元企業を中心とした新規取引の開拓や総合取引の拡大に努め、また個人のお客さまの住宅ローンをはじめとしたニーズにも積極的にお応えいたしました結果、前年同期比473億円増加して5兆2,154億円となりました。

損益状況につきましては、経常収益は、前年同期比31億6千9百万円増加し、849億3千1百万円となりました。経常費用は、海外金利の上昇に伴う国際部門資金調達費用の増加や営業経費の増加を主因に、前年同期比33億9千1百万円増加し、576億6千万円となりました。

以上の結果、経常利益は前年同期比2億2千2百万円減少して272億7千1百万円、中間純利益は前年同期比6億7千万円減少して170億5千8百万円となりました。

なお、業務純益から一般貸倒引当金繰入額と債券損益を控除したコア業務純益は、前年同期比4千6百万円増加して285億円8千2百万円となりました。